

2012(仏暦2555)5月号 (第76号)

# 万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行  
浄土真宗本願寺派  
万行寺 山崎信充  
〒385-0003  
長野県佐久市下平尾461-1  
電話 0267-67-2460



## ■住職法話

教えを聞くということ

## ■仏事のイロハ

ほうおんこう  
「報恩講」はもっとも重要な法要

## ■本願寺の本

西本願寺への誘い

## ■お知らせ、編集後記

## Photo

暖かくなり、花の季節になりました。小さな蝶々もたくさん飛び回っています。

花と共に、雑草も勢いよくなり、庭の草取りに追われる日々です。皆さまはいかがでしょう。

# 住職 法話

## 教えを聞くということ

万行寺の山号は「聞宝山」といいます。山号とは仏教寺院に付いている称号です。以前はありませんでしたが、三年前の寺の開基三百年に合わせ、新たに設けさせていただけました。ちなみに本山の西本願寺は「龍谷山」という山号が付いています。

この「聞宝山」は、宝永六（一七〇九）年に聞了という方が万行寺を開かれたという三百年前の開基に由来しています。聞了の「聞」と、宝永年間の「宝」を取りました。また、浄土真宗の実践の第一である「聞法」にもかけてあります。

お釈迦さまの説かれた『無

量寿経』のなかに、

もし法を聞かば精進して求めよ。法を聞きてよく忘れず、見て敬ひ得て大きに慶ばば、すなわちわが善き親友なり。このゆゑにまさに意を発すべし。たとひ世界に満てらん火をも、かならず過ぎて要めて法を聞かば、かならずまさに仏道を成じて、広く生死の流を濟ふべし。

とあります。現代語訳では、もし教えを聞くことができたら、努め励んでさとりを求めるがよい。教えを聞いてよく心にとどめ、仏を仰いで信じ喜ぶものこそ、わたしのまことの善き友で

ある。だからさとりを求める心を起こすがよい。たとえ世界中が火の海になったとしても、ひるまず進み、教えを聞くがよい。そうすれば必ず仏のさとりを完成して、ひろく迷いの人々を救うであろう。

となりませう。教えを聞くことの大切さをお示し下さいませ。そして、教えを聞きよく心にとどめ、信を得て大いに慶ぶ人をまことの善き友と言つて下さいませ。

親鸞さまも『正信偈』の中で、

獲信見敬大慶喜  
即横超截五惡趣

とあるように、信を獲て大い

に慶び敬う人は、ただちに本願力によつて迷いの世界のきずなが断ち切られると言われます。

仏教は、あなたの先祖の靈や前世がどうだから迷つていくということではなく、私の奥底にある迷いとは何なのかに気づく教えです。それには教えを聞くことが大切だということなのです。

『聞宝山』は、その仏さまの教えを聞くことこそ「宝」であるという意味も込められています。ご法話は、進んで聴聞に勤しみたいものです。



# ハロイの事 仏事のイロハ

## 「報恩講」はもっとも重要な法要

お寺の「報恩講」が近づく、月忌参りの折などに「〇月〇日に報恩講が勤まりますので、ぜひお参り下さい」と勧めていくのですが、時々「報恩講って何ですか？」と尋ねられ、ガツクリとくることがあります。す。「報恩講を知らずして、何の門徒か！」と内心思ったりするのですが、そこは抑えて、報恩講がいかに大切な法要かを話します。移動が激しく、核家族の多い東京や大阪などの都会では、報恩講を知らないご門徒（？）が増えてきています。

報恩講は、浄土真宗の教えを開いて私たちにお示し下さ

った宗祖親鸞聖人の、そのご苦勞を偲んで営まれる一年でもっとも重要な法要です。私たちは、先祖の年忌法要には割合、気を配りますが、その先祖の方がたが心から慕われたのが親鸞聖人であり、また「聖人の教えを依り所に人生を歩むように」と私たちに願われているのも先祖の方がたです。聖人のご恩を忘れるようでは、せつかくのご先祖の苦勞も水泡に帰してしまいましょう。

親鸞聖人の「ご恩に感謝し、聖人がお示し下さった如来さまのご本願を仰いで、お念仏申す人生を歩むのが門徒です。報恩講はそうした私たちにとって、何よりのご縁となる法要なのです。

ところで、この報恩講は本山をはじめ、全国のお寺、一

般家庭でも勤められます。本山では、毎年、聖人の御正忌（一月十六日）に合わせて一月九日から十六日までの七昼夜、勤められます。御正忌に勤まることから「御正忌報恩講」と言い、「御七昼夜」とも呼んでいます。各お寺や家庭では、一般に、本山の法要に先立って、年内に勤められるならわしで、そのため「お取り越し」とか「お引き上げ」と言っています。

これらの報恩講のお飾り法要後は、精進料理のお齋を

出したりします。いずれにしても、努めて報恩講のご縁を持ち、お参りをしましょう。

**ポイント**

●報恩講は、親鸞聖人のご恩に感謝するもっとも重要な法要。

●何はさておきお参りする「仏事のイロハ」末本弘然著、本願寺出版社刊より」

「任職談」「御正忌」とは、親鸞さまがご往生された日のことです。「報恩講」同様、特別な言葉が使われます。最近が家庭内でも教えることが無くなっています。説明を加えながら僧侶の役割が重要だと感じるところです。



本山の報恩講のようす

## ～本願寺の本～

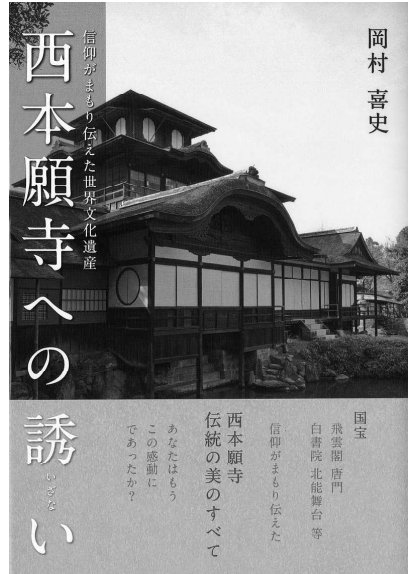
### 「西本願寺への誘い」

信仰がまもり伝えた世界文化遺産

岡村喜史 著 本願寺出版社 刊

定価 1,260円(税込)

西本願寺 伝統の美のすべて  
 本願寺が京の地に建てられて400年あまり。  
 桃山文化の粋を集めた本願寺の建造物は今  
 日まで多くの人びとの信仰によってまもり  
 伝えられてきた。西本願寺の伝統の美をオ  
 ールカラーページで一挙公開。  
 (本願寺出版社商品説明より)



## 万行寺門信徒会より



総代役員会が、この5月19日(土)に開かれ、万行寺門信徒会の本年度のご依頼について話し合われました。近々、本年度の会費納入についてのご案内を門信徒方々にさせていただきます。何とぞご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 編集後記

今月の法話は、お寺の山号さんごうの由来ゆらいにふれました。確か以前も、この話題にふれて書いたような…という記憶が、書き始めてからよみがえりました。◆寺報も何年か続けていると、お話が重なるものですが、私は以前のもを見直すということは自然としなくなりました。不思議なものです。それは、話題は同じでも、時々によって味わいが微妙に変わっているものだからでしょう。◆いずれ読み返す時期がきた時は、味わいの変化を感じるのだと思います。

